

## 造林地におけるシカ被害対策の取組

(群馬県における林業普及指導員の取組事例)

### 現状と課題

群馬県富岡森林事務所は、県南西部の4市町村を対象に普及活動を行っており、管内の人工林面積（民有林）は、約1万5千haである。人工林が本格的な利用期を迎え、主伐（皆伐）・再造林を進めていく機運が高まっているが、ニホンジカによる造林木の食害や剥皮の被害が深刻であり、森林所有者の再造林への意欲を減退させる大きな要因となっている。

### 取組内容

シカ被害低減を目的に「シカの誘引捕獲」「新技術導入による獣害対策の効率化、省力化」「簡易な防除対策」等に取り組んだ。

#### (1) シカの誘引捕獲について

①獣害対策会議の開催 ②研修会の実施 ③シカ捕獲の実施

#### (2) 新技術導入による獣害対策の効率化、省力化

群馬県林業試験場考案の複数のくくりわなと通報装置を組合わせた誘引捕獲システムを導入

#### (3) 低コストで簡易な防除対策の検討

群馬県林業試験場と連携して安価な資材による「簡易な防除対策」試験を実施

### 成 果

- ・ 誘引捕獲により、捕獲効率（捕獲実績／設置延日数）が、獣道に設置するくくりわな（1%程度）に対し年平均3.8～5.2%と効率的であった。
- ・ 通報装置を組合わせた誘引捕獲システムにより、労務負担の軽減（捕獲人工の約35%）が図れた。
- ・ 安価な資材（ワイヤーメッシュ）を60cmの高さに立て掛けるように2重に設置し、外側金網の内周に1mの高さにロープを設置する簡易な防除対策を実施。シカの侵入は確認された頭数の約6%に止まり、枠の内外でスギの生育状況は明らかな差異が生じた。



写真1 わな設置研修会



写真2 ワイヤーメッシュの設置状況

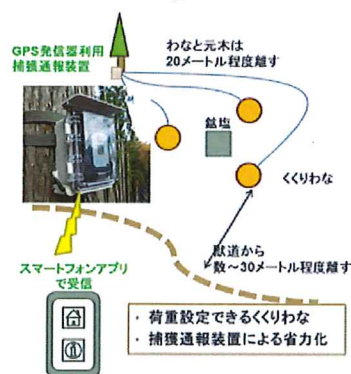


図1 誘引捕獲システム



写真3 生育状況